

山行報告書

受付 No.	293	登山地・ルート	常念岳～蝶ヶ岳
目的	晩秋の山を楽しむ		
メンバー	大山、岩倉		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
11・6・日	雨	浜松＝三股◎～前常念岳 7:23 12:15
11・7・月	晴れ	前常念岳～常念岳～蝶ヶ岳～三股◎＝浜松 6:45 7:59 12:43 15:42

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

入山日の天気予報は悪かったが、翌日は回復が見込まれそうなので入山。浜松を20時に出たので、1時半には登山口に着き、十分な仮眠が取れた。朝から小雨。初雪を踏めるのを期待していたけれどそれも叶いそうになく、テント生活用の水を2リットルずつ背負う。2年前の12月に、ほりで～ゆ～四季の郷の駐車場から半日かけて林道を歩いて入山した時には、夏道が雪で埋まった急斜面と悪戦苦闘して敗退したが、今回、広い樹林帯の急斜面にジグザグにつけられた道を辿りながら、やっぱり直登は厳しいな～と思った。冬に入るなら大平高原の辺りから尾根末端に取り付くのが現実的だろうか。雨の降る中、樹林帯を3ピッチで尾根に乗り、2400mくらいで森林限界に出る。花崗岩の岩場を登って行くが、この季節、雨に濡れた上に稜線の風に吹かれるのはとても寒い。前常念の石室まで来るとテントを張れそうな整地された場所があり、雨も強くなってきたためここで行動終了とする。テントの中で火を点けても濡れた服や靴下はなかなか乾かず、湿ったままシュラフに入った。

2日目、周囲はガスっているが空は晴れているようだ。展望を期待して常念岳へと向かう。途中、3組の雷鳥に出会う。もう白くなっているものもあった。岩倉さんが見つけるのが早い。常念小屋側の斜面は日陰になっており岩の表面が凍っているのか滑りやすかった。自分の古い登山地図に載っている常念小屋へのトラバース道は現在はない。10年前には常念岳を越えて常念小屋に行った記憶があるが、今回は常念小屋からの登山道と合流してから山頂に出た。山頂に出るも、槍ヶ岳はじめ梓川の向こうの山並みはガスの中。蝶ヶ岳に向けて大きく下る。高度を下げるとガスが濃くなる。蝶ヶ岳を過ぎて蝶ヶ岳に向かう頃に穂高連峰が見えるようになり、最後までかかっていたガスが取れて槍ヶ岳が姿を見せてくれた。蝶ヶ岳まで行くと他の登山者がいた。蝶から下ると再びガスの中に入るが、結構濃いガスで霧雨のように濡れた。2ピッチ半で駐車場へと戻る。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



石室前の平坦地



蝶ヶ岳への稜線



すっかり冬毛



この景色が見たかった



こちらは切替わり中



稜線で見た虹